

岡山大学

環境報告書 2026——

OKAYAMA UNIVERSITY
ENVIRONMENTAL REPORT



OKAYAMA
UNIVERSITY

世界への扉を開く



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

CONTENTS

学長挨拶	2	Ⅲ.省エネルギーの推進	
1. 大学概要	3	[3] 総エネルギー消費量	
2. 環境管理組織	5	[4] 電力の月別消費量	
3. 環境方針	6	[5] サステイナブルキャンパスの整備	
4. 環境目標と評価	7	[6] ライトダウン イン 岡山大学 2025	
5. 環境教育・環境研究・社会貢献活動	9	Ⅳ.省資源対策	
Ⅰ.岡山大学のSDGsの達成に向けた取り組み		[7] PPC (Plain Paper Copy) 用紙	
Ⅱ.環境教育活動		[8] 用水 (上水)	
[1] 炭素循環をキーワードに3学年を通して系統的 にシステム思考を育成する单元構成の提案		Ⅴ.廃棄物の減量化・適正管理	
Ⅲ.環境研究活動		[9] 廃棄物・再資源化物の排出量	
[2] 分子サイズの容器による新機能創出		[10] 有害廃棄物の適正管理	
Ⅳ.社会貢献活動		(1) 実験廃液	
[3] SDGs × 防災 ―地域との協働型防災訓練―		(2) ポリ塩化ビフェニル (PCB) 廃棄物	
6. 自主的環境改善活動	13	Ⅵ.グリーン購入の推進	
[1] 岡山大学エコナイト 2025		[11] グリーン購入	
[2] クリーンキャンパス 2025		[12] 環境配慮契約	
[3] リサイクル市		Ⅶ.化学物質の管理徹底	
7. 活動に伴う環境負荷	15	[13] 化学物質の適正管理	
Ⅰ.環境負荷の状況		[14] 化学物質の環境への排出・移動量	
Ⅱ.地球温暖化対策		Ⅷ.排水管理状況	
[1] 二酸化炭素排出量		Ⅸ.省エネルギー・省資源のための取り組みと環境会計	
[2] 地球温暖化対策に関する取り組み		[15] 省エネルギー・省資源のための取り組み	
		[16] 環境会計	
		8. 法規の遵守状況	27
		9. 第三者コメント	28

作成方針

本学の環境活動について、本学の構成員を含めたステークホルダーにご理解いただくために公表するものです。

報告書の対象範囲 (以下に示す地区における教育・研究・社会貢献活動)

津島地区、鹿田地区、倉敷地区 (資源植物科学研究所)、三朝地区 (惑星物質研究所)
東山地区 (附属幼稚園、附属小学校、附属中学校)、平井地区 (附属特別支援学校)

報告書の対象期間・発行

対象期間 令和7年4月 (2025年4月) ~ 令和8年3月 (2026年3月)

発行 令和8年9月



私は学長就任時から「不易流行」という言葉を本学の進むべき方向性として位置付けています。本学における「不易」とは、岡山大学の過去・現在・未来に関わる全ての人々の持続的で多様な幸せ（Well-being）の実現を追求することです。一方の「流行」とは、国内外の社会情勢を見極めた上で、地域の思いや国の施策を先取りし、経営改革、人材育成、研究開発などを戦略的に推進していく姿勢を指しています。これまでに「岡山大学長期ビジョン2050」やその実現に向けた具体的な戦略として「未来共創戦略2025－2027」を策定してきましたが、この度、大学として一体的な取

り組みを推進するために、本学が組織として果たすべき使命（ミッション）、目指す理想像（ビジョン）、大切にしている行動指針（バリュー）、それらを実現するための具体的な戦略（ストラテジー）を体系的に整理しました（MVVS）。また、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）」を推進することで本学のさらなる研究力の向上に努めてまいります。なお、本学の研究成果を社会に実装し、社会を変えていくためには、自治体や産業界などとの強力な連携が必要です。そのための場として、2025年3月に「共創イノベーションラボ（KIBINOVE）」を設立しました。これにより、産学官民の連携を促進し、地域課題の解決や社会変革につながるイノベーションの創出を目指す拠点として、さまざまな活動が展開されています。

未来を担う人々のWell-beingを実現するためには、地域や地球環境における課題解決を図ることが不可欠です。本学ではカーボンニュートラル戦略本部を設置し、研究拠点形成支援など様々な取り組みを行っています。前述の「未来共創戦略2025－2027」の中でも、カーボンニュートラルに関わる具体的な戦略について明示しており、今後を着実に取り組んでいきます。「岡山大学環境報告書2026」は、岡山大学の環境コミュニケーションツールとして、本学の諸活動から生じる環境負荷状況の情報提供とともに、環境にかかる教育・研究・社会貢献・自主的環境改善活動についての情報発信のプラットフォームでもあります。

最後に、本学の国際色豊かで多様性に溢れた人財が誇りと希望を持ち、それぞれが教育・研究に打ち込める環境整備を行い、地域脱炭素社会の実現に向けた活動を積極的に推進してまいります。今後とも岡山大学へのご理解とご支援を宜しくお願いいたします。

国立大学法人岡山大学 学長

那須 保友

1 大学概要

岡山大学概要

法人名：国立大学法人岡山大学
 所在地：〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
 創基：1870(明治3)年4月
 沿革：https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile02.html
 学長：那須 保友
 地区名称：津島地区、鹿田地区、東山地区、平井地区、八浜地区、津高地区、倉敷地区、三朝地区、牛窓地区、芳賀地区、半田山地区、沖元地区
 職員・学生数：19,044人

区 分	内 訳	区 分	内 訳
役員等 10人	学長 (1) 理事 (7) 監事 (2)	大学院学生 3,271人	修士課程・博士前期課程 (1,819) 博士課程・博士後期課程 (1,310) 専門職学位課程 (142)
教職員 4,269人	教授 (446) 准教授 (374) 講師 (134) 助教 (495) 助手 (7) 教諭 (101) 事務・技術職員 (2,712)	児童・生徒・園児 1,277人	小学校 (580) 中学校 (537) 特別支援学校 (59) 幼稚園 (101)
学部学生	10,217人	合 計	19,044人

岡山大学のミッション、ビジョン、バリュー、ストラテジー (MVVS)

MISSION

高度な知の創成・創発・継承を通じた、
人類社会の持続可能な未来の実現

VISION

岡山大学長期ビジョン2050
地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学

VALUE

未 来 志 向 — 先を見据える —
 挑 戦 — まず一歩踏み出す —
 インクルージョン — 多様性を尊重する —

STRATEGY

未来共創戦略2025-2027

教育・人財
戦 略

- 主体的に変容し続ける先駆者の育成
- 世界トップ研究者集団とナレッジワーカーの育成

研究・医療
戦 略

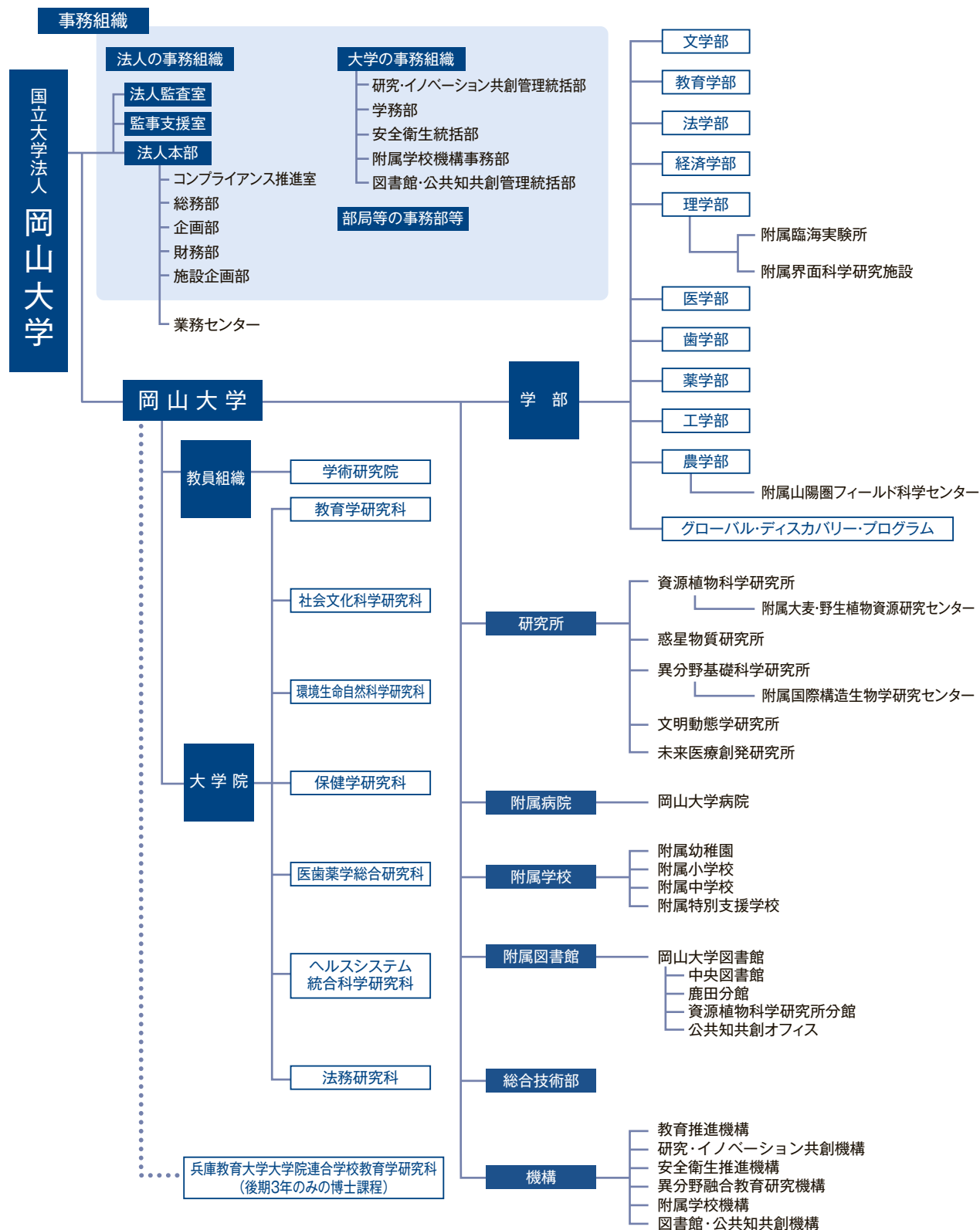
- 強みとなる研究群のシステムによる強化・育成を通じた共創によるイノベーションの創出
- 日本屈指の「診療・教育・研究拠点」となる大学病院の構築

環境・基盤
戦 略

- 教育基盤の構築と多文化共修環境の充実
- 共用・連携等による研究基盤の充実を通じたイノベーション創出集積拠点の形成
- 安定的かつ持続可能な財務基盤と強靱な経営体制の確立

詳細は、岡山大学ホームページをご覧ください。https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/ou-mvvvs.html

組織図



詳細は、岡山大学ホームページをご覧ください。

<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/profile03.html>

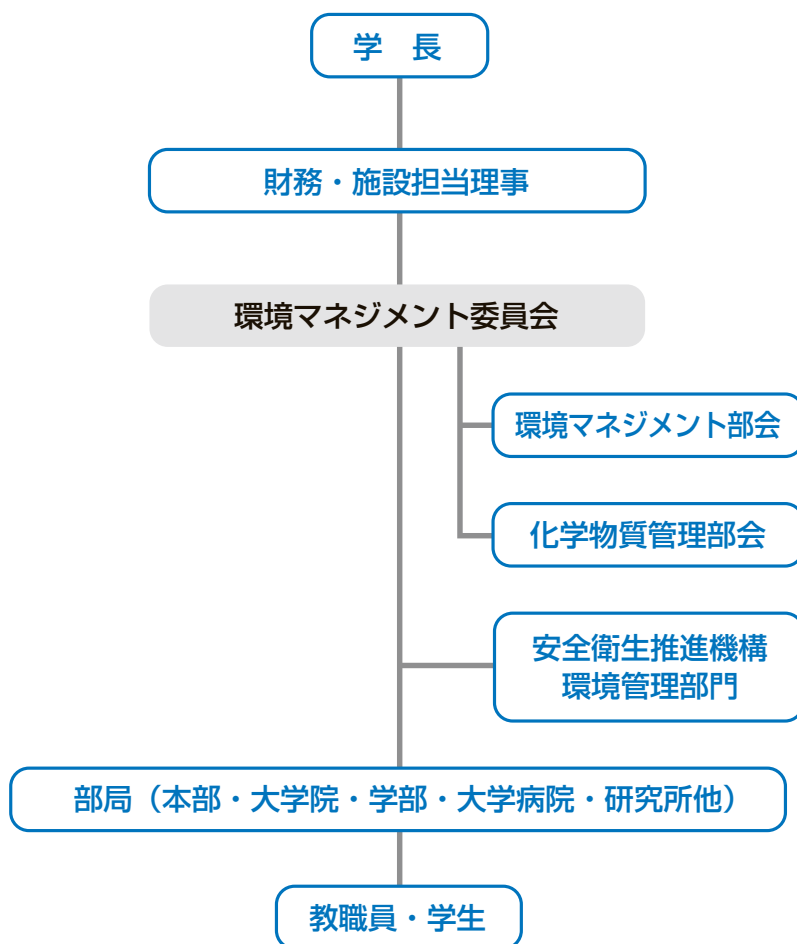
2 環境管理組織

岡山大学では、岡山大学環境管理規則で、岡山大学における修学上及び就業上の良好な環境を実現するため、教育研究及び諸活動が環境に及ぼす影響を把握し、評価し、及び是正するとともに、継続的な改善を行うことを定めています。この継続的な推進を確保するため、環境マネジメント委員会を設置しています。

環境マネジメント委員会では、環境マネジメントの企画・立案・調査及び評価を行い、環境関連法令等の対応、環境マネジメント達成に必要な事項を審議しています。

環境マネジメント委員会は、岡山大学における環境課題の重要課題を特定し、環境目標を審議・決定します。重要課題は、環境影響の重大性、岡山大学の中期目標、実行可能性などを考慮して決定しています。また、環境目標の実施方法及び結果を評価・公表しています。

岡山大学環境管理組織



3 環境方針

岡山大学環境方針

基本理念

岡山大学は、「かけがえのない地球環境をまもり、自然豊かな環境を明日の世代に引き継ぐことが人間社会の基本的な責務である」との認識に立ち、本学における教育、学術研究を始めとするあらゆる諸活動を通して、持続性のある循環型社会を構築し、維持するために地球環境への負荷の低減に努め、サステナブル・キャンパスをめざします。また、「不易流行の経営改革」を推進し、岡山大学自らが主体的に変容しつつ地域と地球の課題解決を通して人類社会の持続的発展に貢献する「誇りと希望の学都」を目指します。

基本方針

岡山大学は、全国有数の総合大学としての特徴を活かし、以下の活動を積極的に推進します。

1. 地球環境・地域環境・生物多様性に関連する教育及び学術研究の活動を推進し、国内外の環境分野において中核的に活躍しうる高い総合的能力と人格を備えた人材を養成するとともに、環境の保全及び改善に貢献する新たな研究成果の創成と継承に取り組みます。
2. 環境に関連する公開講座、シンポジウム等の開催のほか、地域社会との連携を推進し、環境配慮に関する貢献活動に取り組みます。
3. 環境に関連する法令、協定及び自主基準等を遵守します。
4. 事業活動において、次の項目を地球環境保全の重点テーマとして取り組みます。
 - ① 地球温暖化対策
 - ② 省エネルギーの推進
 - ③ 省資源対策
 - ④ 廃棄物の減量化・再資源化及び有害廃棄物の適正処理
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ 化学物質の管理徹底
5. 教職員、学生、生徒など岡山大学に関係する全ての人が、それぞれの立場で、自発的・積極的に環境保全活動の継続的な改善・向上に取り組みます。

2023年4月1日

国立大学法人岡山大学 学長 那須 保友

4 環境目標と評価

令和8年度環境目標（年次目標）

No.	基本方針	環境活動		環境目標（年次目標） （令和8年度）
1	環境に関する教育・研究の推進と人材の育成、環境保全・改善の研究成果の創成と継承	環境に関する教育の推進と人材の育成（教育活動）		学部・大学院、附属学校において環境教育を推進する。
		環境保全・改善の研究成果の創成と継承（研究活動）		環境保全・改善に係る研究を推進し、研究成果を広く公表する。
2	環境に関連する公開講演会等の開催、地域社会との連携・環境配慮の貢献活動	環境に関連する公開講演会等の開催		環境に関連するシンポジウム、講演会、公開講座等を開催する。
		地域社会との連携・環境配慮の貢献活動（地域貢献）		審議会等への参加や産官学の連携により、環境配慮活動を推進する。
3	環境に関連する法令等の遵守	法令等の遵守		大学に関連する環境及び安全に関する法令等を遵守する。環境安全関連法令等の講習会等を開催する。
4	地球環境保全の重要テーマの取り組み	①地球温暖化対策		エネルギー起源の温室効果ガス排出量を2030年度までに51%以上削減（2013年度比）するとの政府目標を踏まえ、地球温暖化対策についての啓発、具体的行動計画の立案、実施等の取組を行う。
		②省エネルギーの推進		省エネルギーについての啓発活動、照明器具のLED化及び空調設備の高効率化等を実施することにより、エネルギー使用量を低減し、前年度より電力使用量を2.5%以上、ガス使用量を5.8%以上削減する。
		③省資源対策	用 水	節水等の取り組みを強化し、前年度より用水使用量を1.9%以上削減する。
			用 紙	PPC用紙購入数を2027年度までのできるだけ早期に50%削減（2019年度比）するとの全学目標達成に向けて、用紙削減の啓発、会議ペーパーレス化、配布紙資料の抑制、両面使用等の取組を行う。
		④廃棄物の適正処理	廃棄物の減量化・再資源化	廃棄物の分別・再資源化を徹底し、廃棄物の減量化を図る。
			有害廃棄物の適正処理	有害廃棄物を適正に管理し、安全な委託処理を行う。有害廃棄物処理の状況確認を行う。
		⑤グリーン購入の推進		グリーン購入を推進する。環境配慮型製品の購入に関する調達目標100%を継続する。
		⑥化学物質の管理徹底		化学物質の適正管理を徹底する。管理の検証・改善を図るため、化学物質管理監査を実施する。
5	環境保全活動の継続的な改善・向上	環境保全活動の継続的推進		学内・地域における環境配慮活動を継続的に行う。
		環境コミュニケーションの継続的な推進		環境報告書等により学内外の環境コミュニケーションを継続的に推進する。

令和7年度環境目標（年次目標）の評価

No.	基本方針	環境活動	環境目標（年次目標） （令和7年度）	令和7年度の達成の状況の概要	自己評価	環境報告書掲載エビデンス
1	環境に関する教育・研究の推進と人材の育成、環境保全・改善の研究成果の創成と継承	環境に関する教育の推進と人材の育成（教育活動）	学部・大学院、附属学校において環境教育を推進する。	環境に関する講義、環境教育を広範囲にわたり行った。	○	5Ⅱ．環境教育活動
		環境保全・改善の研究・研究成果の創成と継承（研究活動）	環境保全・改善に係る研究を推進し、研究成果を広く公表する。	様々な分野で、環境に関する研究を行い、成果を公表した。	○	5Ⅲ．環境研究活動
2	環境に関連する公開講演会等の開催、地域社会との連携・環境配慮の貢献活動	環境に関連する公開講演会等の開催	環境に関連するシンポジウム、講演会、公開講座等を開催する。	多くの環境関連の講演会、公開講座等をオンライン等で開催した。	○	5Ⅳ．社会貢献活動
		地域社会との連携・環境配慮の貢献活動（地域貢献）	審議会等への参加や産官学の連携により、環境配慮活動を推進する。	多くの環境関連の審議会等への参画、SDGs関連のイベントの開催などの環境配慮貢献活動を行った。	○	5Ⅳ．社会貢献活動
3	環境に関連する法令等の遵守	法令等の遵守	大学に関連する環境及び安全に関する法令等を遵守する。環境安全関連法令等の講習会等を開催する。	大学に関連する環境及び安全の法令は遵守できている。環境安全関連の講習会をオンラインで開催した。	○	8．法規の遵守状況
4	地球環境保全の重要テーマの取り組み	①地球温暖化対策	エネルギー起源の温室効果ガス排出量を2030年度までに51%削減（2013年度比）するとの政府目標を踏まえ、地球温暖化対策についての啓発、具体的行動計画の立案、実施等の取組を行う。	主に使用電気の二酸化炭素排出係数の減少により、二酸化炭素排出量は前年度比13.2%の減少となった。また、2030年度までに51%削減（2013年度比）するとの目標と比較して、令和7年度は、33.5%の減少となった。	◎	7Ⅱ．地球温暖化対策
		②省エネルギーの推進	省エネルギーについての啓発活動、照明器具のLED化及び空調設備の高効率化等を実施することにより、エネルギー使用量を低減し、前年度より電力使用量を2.5%以上、ガス使用量を5.8%以上削減する。	省エネルギーについての啓発活動、照明器具のLED化及び空調設備の効率化等を実施し、電力使用量は前年度比0.7%減少、ガス使用量は前年度比2.9%の減少であった。	○	7Ⅲ．省エネルギーの推進
		③省資源対策	用 水	節水等の取り組みを強化し、前年度より用水使用量を1.9%以上削減する。	△	7Ⅳ．省資源対策
			用 紙	PPC用紙購入数を2027年度までのできるだけ早期に50%削減（2019年度比）するとの全学目標達成に向けて、用紙削減の啓発、会議ペーパーレス化、配布紙資料の抑制、両面使用等の取組を行う。	○	7Ⅳ．省資源対策
		④廃棄物の適正処理	廃棄物の減量化・再資源化	廃棄物の分別・再資源化を徹底し、廃棄物の減量化を図る。	△	7Ⅴ．廃棄物の減量化・適正管理
			有害廃棄物の適正処理	有害廃棄物を適正に管理し、安全な委託処理を行う。有害廃棄物処理の状況確認を行う。	△	7Ⅴ．廃棄物の減量化・適正管理
		⑤グリーン購入の推進	グリーン購入を推進する。環境配慮型製品の購入に関する調達目標100%を継続する。	環境配慮型製品の購入調達目標100%を概ね達成したが、一部未達成であった。	△	7Ⅵ．グリーン購入の推進
5	環境保全活動の継続的な改善・向上	環境保全活動の継続的推進	学内・地域における環境配慮活動を継続的に行う。	環境イベントの開催など環境配慮活動を継続的に推進した。	○	6．自主的環境改善活動
		環境コミュニケーションの継続的な推進	環境報告書等により学内外の環境コミュニケーションを継続的に推進する。	環境報告書2025を公表し、学内外の環境コミュニケーションを図った。	○	6．自主的環境改善活動

自己評価：◎…目標を上回って達成・○…目標を達成または概ね達成・△…目標を一部達成または未達成・……未実施

5 環境教育・環境研究・社会貢献活動

I. 岡山大学のSDGsの達成に向けた取り組み

岡山大学では、組織として一体的な取り組みを推進するために、本学が組織として果たすべき使命（ミッション）、目指す理想像（ビジョン）、大切にしている行動指針（バリュー）、そしてそれらを実現するための具体的な戦略（ストラテジー）を体系的に整理（MVVS）し、全学を挙げて持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する教育・研究・社会貢献活動を行っています。

世界を変えるための17の目標達成に寄与するため、質の高い教育の提供（4.質の高い教育をみんなに）、研究活動で発生する廃液の適切な管理・処理（12.作る責任つかう責任）、地域をはじめとする環境保全活動（14.海の豊かさを守ろう、15.陸の豊かさを守ろう）及び脱炭素社会に向けたクリーンなエネルギー開発に関する研究（7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに）等を行っています。

本報告書の中では、「環境教育」、「環境研究」、「社会貢献」として、特に優れた活動事例を紹介します。

【SDGsに関する岡山大学の行動指針】

岡山大学は、その理念・目的の下、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献する活動に取り組み、持続可能な社会の実現を牽引していく。



—— 岡山大学SDGsポータル ——

詳しくは、岡山大学SDGsポータルをご覧ください。

<https://sdgs.okayama-u.ac.jp/>

Ⅱ. 環境教育活動

〔1〕 炭素循環をキーワードに 3学年を通して系統的にシステム 思考を育成する単元構成の提案

【目的と活動】

持続可能な社会実現のために、中学校においても、様々な教科の授業でESDの視点をもって教育を行っていく必要があります。附属中学校理科では、炭素循環をキーワードに、3学年を通して系統的に気候変動への視点やシステム思考（持続可能性キー・コンピテンシー）を育むためのカリキュラムを提案し、授業実践を行いました。

＜各学年の学習内容＞

（第1学年）身のまわりの物質

「地球環境に関する視点から、二酸化炭素について探究する」

（第2学年）化学変化と原子・分子

「光合成と呼吸を化学変化で考える」

（第3学年）地球と私たちの未来のために

「炭素循環による二酸化炭素削減」

【期待される効果】

様々な要因が複雑に関係している地球環境について、システム思考を働かせながら、科学的な根拠に基づいて、賢明な意思決定ができるような態度を身につけることにつながると考えます。



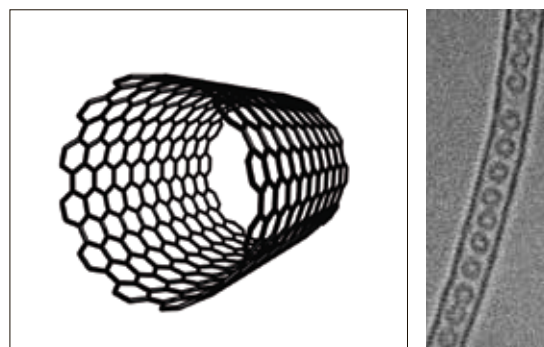
Ⅲ. 環境研究活動

〔2〕 分子サイズの容器による新機能創出



化学の実験では試験管やフラスコなどを用途に応じて使い分け、その中に溶媒や反応させたい物質を入れて化学反応を起こし目的とする物質を得ます。では、この容器を化学反応を起こす物質と同程度のサイズにまで小さくしても同じ化学現象が起こるのでしょうか。実は、容器のサイズを極限まで小さくすると、容器の壁の効果が明瞭に現れ、これまで難しかった化学反応や物質の選択的な取り込みを発現させることができます。

本取り組みでは、炭素を主元素とした壁、および化学的に安定な窒化ホウ素を壁としたナノ空間材料（＝分子サイズの容器）を創製すると共に、微細な空間を有する容器内に分子やイオンが閉じ込められた際の構造、物理化学的性質、および化学反応性を多角的に解析することで、これまで困難であった化学反応の創出や分子選択性を活かした貯蔵・分離剤の開発を実施します。この取り組みは、高価な金属類を用いない触媒の開発や、効率の良い分離・貯蔵剤を開発する上での基本的なコンセプトの提唱に貢献し、広範な分野の材料開発の礎となり得ます。例えば、エネルギー効率に優れた反応プロセスやこれまでに見たこともない化学合成スキームの開発に貢献します。



試験管（上）の直径は数cmであるのに対し、分子サイズの容器（例：カーボンナノチューブ（下））の直径は約2 nm

Ⅵ. 社会貢献活動

[3] SDGs × 防災 — 地域との協働型防災訓練 —

17 パートナースhipで
目標を達成しよう

<取組概要>

本学は、岡山大学長期ビジョン2050「一地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学」のもと、地域全体の災害に対する強靱性（レジリエンス）を高め、マルチステークホルダーの持続的で多様な幸せ（ウェルビーイング）の実現を目指しています。その一環として、2022年度以降、「地域との協働型防災訓練（SDGs×防災）」を実施しており、各年度の主な取り組みは以下のとおりです。

2022年度：自衛隊等と連携した防災訓練を実施し、災害対応の基礎的知見と実践力を強化した。

2023年度：災害対策基本法に基づく指定公共機関である（株）ローソンから講師を招き、防災講演会を開催。企業の災害対応のノウハウを共有した。

2024年度：損害保険ジャパン（株）等と協働し「逃げ地図」づくりワークショップを開催。避難行動の可視化と改善に取り組んだ。

2025年度：「避難所での健康と安全」をテーマに防災イベントを開催。防災講演に加え、4コマ漫画教材を用いたワークショップ「もしもあなたが避難所にいたら？」を実施し、避難所運営における様々な課題への理解促進を図った。

<取組成果など>

本取り組みは、地域住民（町内会）、岡山市（危機管理室）に加え、公的機関や企業を含む多様なステークホルダーと本学との協働による訓練です。互いに連携することで、公的機関、民間企業、市民社会のパートナーシップを推進し、地域全体の防災力向上とSDGs達成に貢献しています。また、地域住民と本学の学生・教職員が、世代を超えてともに防災について考える貴重な機会にもなっています。

各主体が有する経験や強み（人材、知識、設備等の資源）を生かし、本取り組みを通じて健康管理・安全衛生・災害対応といった専門的知見を地域に開放することで、実際の災害場面や避難所運営に即した行動変容へと結びつけ、地域社会のレジリエンス向上に資する「知の社会実装」が実現しています。多様なステークホルダーが共創することで、防災を通じた人材育成・地域連携・教育研究の一体化という新たな価値も創造されています。さらには、各主体に大きな予算負担が生じないことから、非常に高い費用対効果が得られています。

本学は今後も、地域と連携しながら、多様なステークホルダーとともに防災力向上に向けた取り組みをより一層推進してまいります。

◎本取組は **2022年度岡山大学SDGs推進表彰（President Award）優秀賞** を受賞しています。

取組発表会の様子は以下の動画をご覧ください。

●令和4年度岡山大学SDGs推進表彰（President Award）
取組発表会「SDGs × 防災 一地域との協働型防災訓練—」
<https://www.youtube.com/watch?v=hLbUOC11vTg&t=15s>

岡山大学安全衛生推進機構

https://sdgs.okayama-u.ac.jp/efforts/index.php?c=efforts_view&pk=370



2022年度 防災講話



2023年度 防災講演会



2024年度 逃げ地図作りワークショップ



2025年度 防災四コマ漫画ワークショップ

6 自主的環境改善活動

[1] 岡山大学エコナイト 2025

令和7年6月25日（水）に「岡山大学エコナイト2025」を開催しました。本年度は、学生に環境問題を身近に感じてもらうことを目的に、体験型ブースを中心とした企画を行い、楽しみながら学べる内容を用意しました。当日は合唱団や吹奏楽団の協力により会場を盛り上げ、通りがかった人にも参加を促しました。また本年度も環境ミニ講演会が開催され、結果として多くの学生が立ち寄り、環境への関心を高めるきっかけとなったと思います。



[2] クリーンキャンパス 2025

令和7年10月25日（土）に岡山大学生協学生委員C.C.C!が主催するクリーンキャンパス2025を開催しました。本活動は、岡山大学のキャンパス美化活動により身近な環境問題の共有を図ることや、環境セミナーを通じて環境問題への興味関心を持つきっかけになることを目的として、2002年から毎年開催しています。

令和7年度は雨天のため、岡山大学生協学生委員会C.C.C!メンバーを中心に、環境管理部門の教職員、学内の皆様と環境セミナーと岡山市のゴミの分別について楽しく学べるカードゲームを行いました。環境セミナーでは、レジ袋有料化は本当に意味があったのかについて学びました。普段エコだと思っている活動が本当にエコな活動であるのかどうかを今一度考えなおすことができました。ゴミの分別に関するカードゲームでは、様々なゴミの分別方法について楽しく学ぶことができました。

雨天により行えなかった清掃活動については、11月12日（水）に岡山大学生協学生委員会C.C.C!のメンバーで行い、メンバー間で清掃活動を通して身近な環境問題について共有することができました。



[3] リサイクル市

環境部ECOLOでは、毎年3月にリサイクル市というイベントを開催しています。このリサイクル市は、岡山大学を卒業する学生から不要になった家具や家電を無料で譲り受け、部員が清掃した後、新入生向けに低価格で販売する取り組みです。まだ使用可能な家具や家電をリユースすることでごみの削減を目指し、新入生の経済的負担を軽減することを目的としています。したがって、「家具や家電の回収および清掃に伴う費用のみを販売時の利益とする」という方針を掲げ、販売する商品は必要最低限の価格で提供しています。

令和7年度には、3月28日と29日にイベントを開催しました。最初の2時間は新入生のための特別入場時間とし、さらに新入生に対して全商品を2割引にしました。その結果、約270点の家具や家電のうち、1日目には約90%が売れ、2日目には98%まで販売が進みました。

また、今回は2025年秋に入学された留学生の方にもご来場いただけるよう、購入方法や会場案内図の英語版を作成しました。その結果、前年度より約2倍の留学生の方々にご来場いただき、より多くの方にリサイクル市の活動を知っていただけました。この機会にご来場・ご購入いただいた皆様、および開催に協力していただいた岡山大学の学務部、生協、その他の関係者の皆様へ、厚く御礼申し上げます。令和8年度もより良いイベントとなるよう、環境部ECOLO一同、企画と運営に努めて参ります。



7 活動に伴う環境負荷

I. 環境負荷の状況

岡山大学における教育・研究・医療等の諸活動は、様々な形で環境に負荷を与えています。図1に令和7年度の本学マテリアルバランスの概要として、INPUT側に総エネルギー消費量（原油換算）、水資源などの消費量を、OUTPUT側に温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算排出量）、廃棄物排出量などを示します。

岡山大学では、これら環境負荷の状況を把握し、①地球温暖化対策、②省エネルギーの推進、③省資源対策、④廃棄物の減量化・適正管理、⑤グリーン購入の推進、⑥化学物質の管理徹底の6つのテーマを環境方針の重点課題に掲げ、環境への負荷低減に向けた活動に努めています。

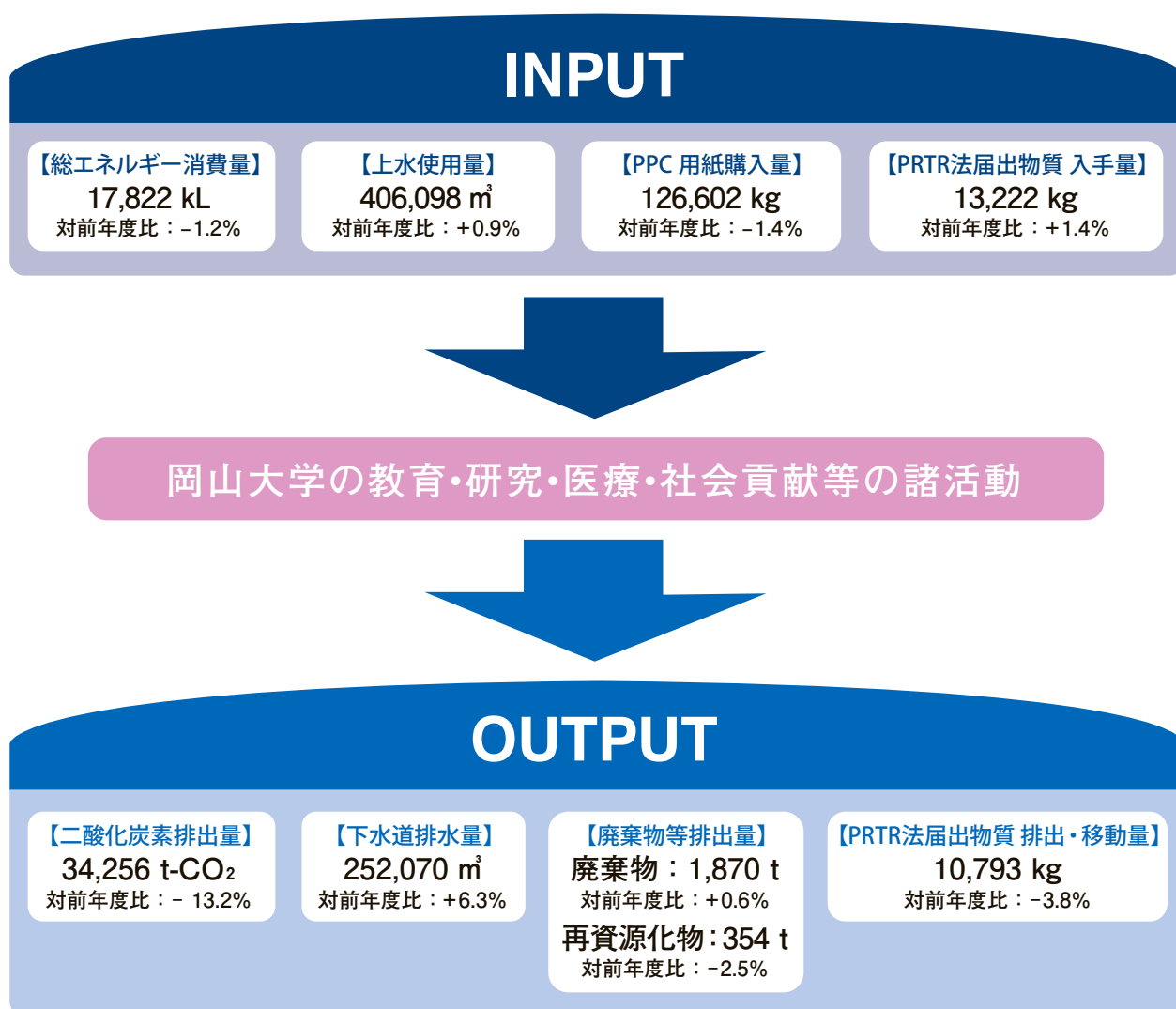


図1 令和7年度岡山大学の諸活動に伴う環境負荷の概要

ここで、本報告書内のエネルギー消費量（GJ）、二酸化炭素排出量（t-CO₂）の算定では、表1に示す換算係数を用いています。

エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律（以下、「省エネ法」と略します）及び地球温暖化対策の推進に関する法律においては、平成20年の改正に伴い、電力消費量から温室効果ガス排出量への換算係数は毎年見直され、公表されることとなっています。すなわち、同じ電力消費量であっても、換算係数が変化することにより、二酸化炭素排出量は増減することとなります。

なお、再生可能エネルギー特約のある電力契約を行っているため、二酸化炭素排出量の算定においては、購入電力量を再生可能エネルギー由来とそれ以外に区分し、それぞれの排出係数を適用して算定しております。

また、令和4年度の改正により、エネルギー熱量への換算係数の変更が行われています。さらに、省エネ法において把握が必要となるエネルギーとして、新たに非化石エネルギーが加わりました。

なお、本学において消費される非化石エネルギーは購入電力によるもの以外は、保有する太陽光発電設備による電力（令和7年度実績：102kWh）によるものだけです。ただし、基準年との経年比較が困難であるため、太陽光発電量は過去を含め、本報告書におけるエネルギー消費量（GJ）の算定では考慮していません。

改正省エネ法の詳細については、以下のURLを参照ください。

●資源エネルギー庁省エネポータルサイト（省エネ法の改正）

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/enterprise/overview/amendment/

表1 令和7年度エネルギー消費量(GJ)及び二酸化炭素(t-CO₂)への換算係数

区 分		単位発熱量		二酸化炭素排出係数		
電 力	令和5年3月まで	9.76	GJ/千kWh	0.484 ^{※3)} ,0.457 ^{※4)} 0.411 ^{※5)} ,0.000 ^{※6)}		t-CO ₂ /千kWh
	令和5年4月以降	8.64				
都市ガス(13A)	令和5年3月まで			2.29	t-CO ₂ /千m ³	
	令和5年4月以降			2.05 ^{※7)}		
	令和5年10月まで	46.0 ^{※1)}	GJ/千m ³			
	令和5年11月以降	45.0 ^{※1)}				
液化石油ガス(LPG)	令和5年3月まで	50.8	GJ/t	3.00	t-CO ₂ /t	
	令和5年4月以降	50.1		2.99		
A 重 油	令和5年3月まで	39.1	GJ/kL	2.71	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降	38.9		2.75		
灯 油	令和5年3月まで	36.7	GJ/kL	2.49	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降	36.5		2.50		
軽 油	令和5年3月まで	37.7	GJ/kL	2.58	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降	38.0		2.62		
ガ ソ リ ン	令和5年3月まで	34.6	GJ/kL	2.32	t-CO ₂ /kL	
	令和5年4月以降	33.4		2.29		
原 油		0.0258 ^{※2)}	kL/GJ	—		

・エネルギーの発熱量への換算 【出典】エネルギー使用の合理化に関する法律施行規則別表第一

・二酸化炭素排出量への換算 【出典】特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令及び温室効果ガス算定排出量等の報告等に関する命令

※1) 国が公表した岡山ガス（株）の発熱量

※2) 合計した熱量（GJ）を原油換算（kL）する場合に使用する換算係数

※3) 国が公表した中国電力（株）の再生可能エネルギー以外に由来する購入電力量に係る基礎排出係数（津島地区、倉敷地区、三朝地区に適用）

※4) 国が公表した四国電力（株）の再生可能エネルギー以外に由来する購入電力量に係る基礎排出係数（鹿田地区に適用）

※5) 国が公表した中部電力ミライズ（株）の再生可能エネルギー以外に由来する購入電力量に係る基礎排出係数（附属学校園に適用）

※6) 国が公表した中国電力（株）及び中部電力ミライズ（株）の再生可能エネルギーに由来する購入電力量に係る基礎排出係数

※7) 国が公表したガス事業者別排出係数における代替値（省令の排出係数）

Ⅱ．地球温暖化対策

〔1〕 二酸化炭素排出量

岡山大学の地球温暖化対策は、温室効果ガスのうちエネルギー消費に由来した二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。

エネルギー消費に関する二酸化炭素排出量の推移を図2に示します。令和7年度の二酸化炭素排出量は34,256tで、対前年度比13.2%の減少となりました。

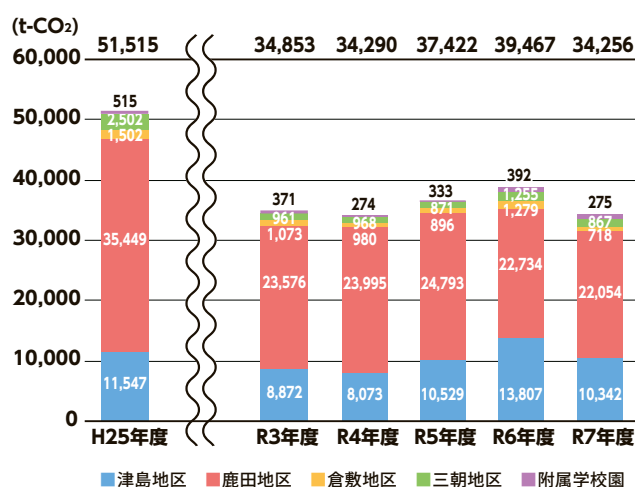


図2 二酸化炭素排出量の推移（地区別累計）

〔2〕 地球温暖化対策に関する取り組み

岡山大学では世界的な地球温暖化対策に呼応して、脱炭素社会の実現に向けた本学の実施計画を戦略的に推進するため、令和4年4月にカーボンニュートラル戦略本部を設置し、同12月に「岡山大学カーボンニュートラル推進計画」を策定しました。

令和4年9月には、「国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画」を改正しました。国の行動計画に準拠し、基準年を平成25（2013）年度、計画期間を令和12（2030）年度までとし、目標値を設定しています。

また、「岡山県環境への負荷の低減に関する条例」により、岡山大学は令和2年度実績を基準とした計画を継続提出し、その履行状況について毎年度実績報告を行っています。令和3年度実績報告と共に、実施基本計画を踏まえた計画変更を行いました。令和6年には制度変更のため計画変更を行いました。

これらの計画については、以下のURLを参照ください。

- 岡山大学カーボンニュートラル推進計画
<https://websv.okayama-u.ac.jp/cn/activity/>
- 国立大学法人岡山大学における地球温暖化対策に関する実施基本計画
https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/soumu-pdf/eco_kihonkeikaku_r409.pdf
- 岡山大学温室効果ガス削減計画書（岡山県環境への負荷の低減に関する条例）
<https://www.pref.okayama.jp/uploaded/attachment/335834.pdf>

Ⅲ. 省エネルギーの推進

[3] 総エネルギー消費量

岡山大学では、電力、ガス（都市ガス（13A）、液化石油ガス（LPG））、A重油のほか、灯油、揮発油（ガソリン）、軽油などの化石燃料を消費しています。総エネルギー消費量の推移を図3、エネルギー源別消費比率の推移を図4に示します。令和7年度の総エネルギー消費量は、原油換算17,822kLで、前年度比1.2%の減少となりました。

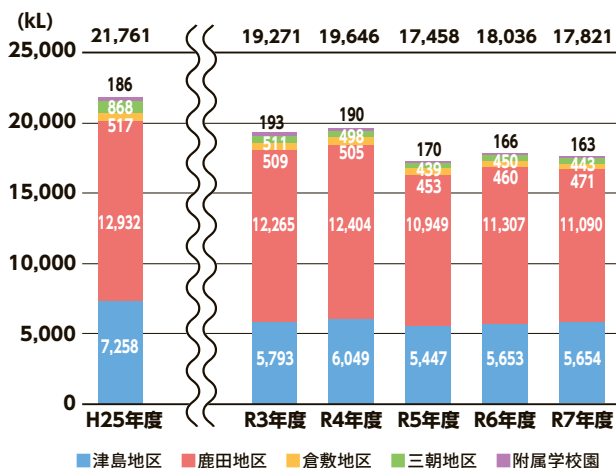


図3 総エネルギー消費量の推移（原油換算・地区別累計）

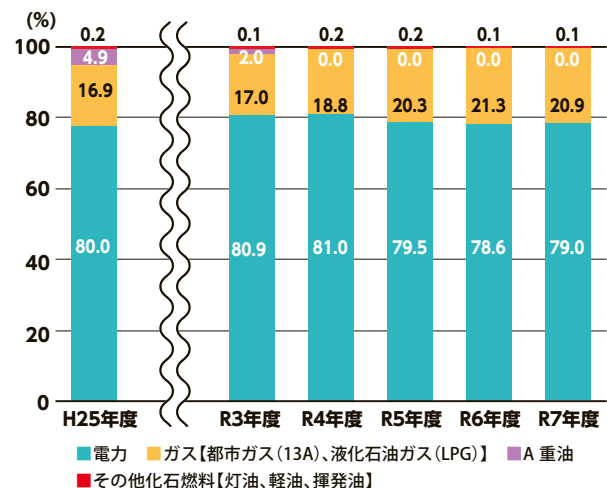
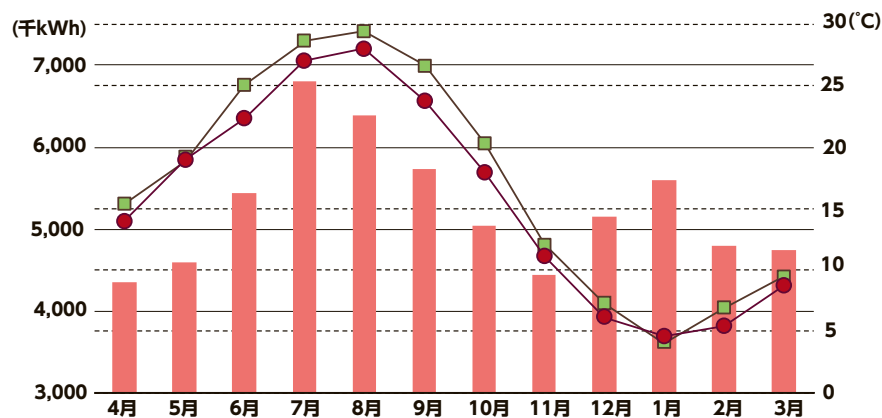


図4 エネルギー消費比率の推移（エネルギー源別）

[4] 電力の月別消費量

令和7年度の電力の月別消費量と岡山市の月平均気温の関係を図5に示します。岡山市の平年値は平成3年～令和2年の月平均気温で、月平均気温はいずれも気象庁気象統計情報によります。

令和7年度は、平年に比べて夏季（6月から9月）は暑く、冬季（11月から3月）は暖かい気温条件であったことが分かります。



区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
R7年度月別電力消費量	4,373	4,600	5,418	6,805	6,391	5,756	5,053	4,433	5,182	5,573	4,813	4,761	63,158
R7年度月別太陽光発電量	11	10	10	11	10	9	7	6	7	6	7	9	102
R7年度岡山市月平均気温	15.1	19.3	25.0	29.8	29.9	26.8	20.3	12.0	7.3	4.4	7.1	9.8	
岡山市月平均気温平年値	14.1	19.1	22.7	27.0	28.1	23.9	18.0	11.6	6.6	4.6	5.2	8.7	

図5 電力の月別消費量と岡山市の月平均気温平年値及び月平均気温の推移

〔5〕 サステナブルキャンパスの整備

施設整備に際して、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを実施し、持続可能な環境配慮型社会に貢献するサステナブルキャンパスの整備を進めています。

令和7年度中の施設整備において、省エネルギーの推進としてZEB（Net Zero Energy Building）化を念頭に、内壁面吹付断熱材・複層ガラス・屋上遮熱断熱防水の採用及びLED照明・高効率変圧器・高効率空調設備・全熱交換型換気扇・再生配管材・グリーン購入法適合衛生器具他の導入をしました。省資源化等地球環境負荷の低減として、工事現場内で発生する建築副産物の発生抑制・再利用再資源化に努めています。また、排出ガス対策及び低騒音型建設機械を使用することにより工事現場周辺の環境にも配慮しています。

また、平成28年度に学長裁定された環境賦課金制度^{*}により省エネルギー機器等の更新整備を行いました。

今後も地球環境への配慮及び維持コスト削減等に資する施設整備に努めていきます。

施設整備費補助金



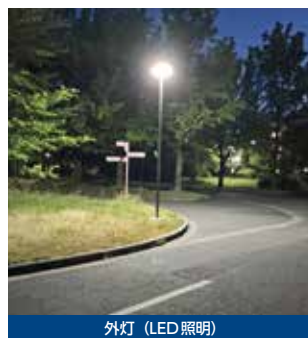
【鹿田】総合研究棟改修I（保健学系）



ZEB Ready^{*}

（ LED照明・内壁面吹付断熱材・複層ガラス（Low-E）・屋上遮熱断熱防水・高効率空調設備・全熱交換型換気扇・再生配管材・グリーン購入法適合衛生器具 ）

環境賦課金



外灯（LED照明）



工学部（高効率空調設備）

^{*}環境賦課金制度： 節電・節水等への意識向上を図るとともに、省エネルギーの推進・地球温暖化対策・光熱水料の経費節減に向けた取り組みをすすめるため、省エネルギー改修工事・省エネルギー機器更新等を促進することを目的とした制度
^{*}ZEB Ready： 外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建築物。基準一次エネルギー消費量から50%以上の一次エネルギー消費量を削減している。

〔6〕 ライトダウン イン 岡山大学2025

令和7年4月22日（火）アースデー、6月21日（土）夏至の日、7月7日（月）クールアースデー（七夕）、10月6日（月）中秋の名月の4日間、「ライトダウン イン 岡山大学2025」を開催しました。

津島地区の陸上競技場、鹿田地区の岡山大学病院及び歯学部屋外照明のライトダウンを行うことにより、地球温暖化防止及びカーボンニュートラルへの啓発、節電意識の向上の一助となることを期待して実施したものです。



岡山大学病院（鹿田地区）ライトダウン前



岡山大学病院（鹿田地区）ライトダウン後

Ⅳ. 省資源対策

[7] PPC (Plain Paper Copy) 用紙

岡山大学では、紙資源の削減として、普通紙、いわゆるコピー用紙であるPPC用紙の削減に取り組んでいます。PPC用紙購入量の推移を図6に示します。

令和7年度のPPC用紙の購入量は、126,602kgで対前年度比1.4%の減少となりました。

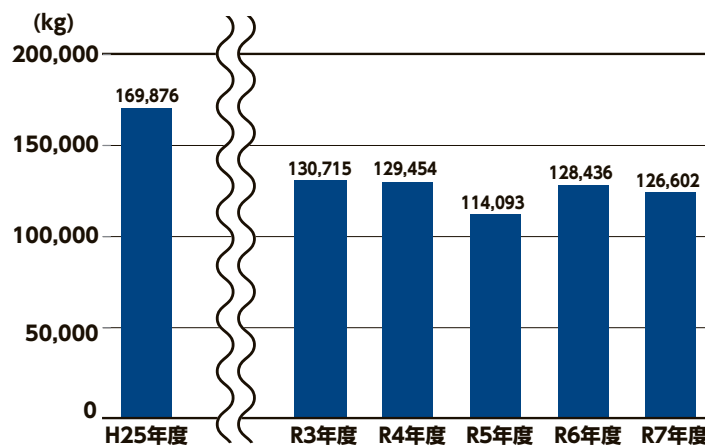


図6 PPC用紙購入量の推移

[8] 用水（上水）

上水総使用量の推移を図7に示します。令和7年度の上水総使用量は、406,098m³で、対前年度比0.9%の増加となりました。

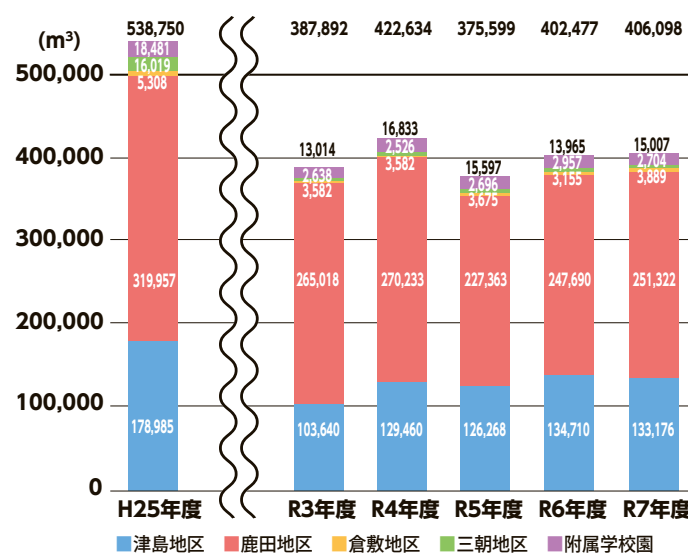


図7 上水使用量の推移

V. 廃棄物の減量化・適正管理

〔9〕 廃棄物・再資源化物の排出量

岡山大学の学内規定に基づき、一般廃棄物、産業廃棄物、再資源化物の排出量について、毎年集計を行っています。廃棄物及び再資源化物排出量、一般廃棄物排出量、産業廃棄物排出量、再資源化物排出量の推移を図8、9、10、11に示します。

令和7年度の廃棄物の排出量は、1,870tで、対前年度比0.6%の増加となっています。また、全廃棄物排出量に対する再資源化物排出量の比率（再資源化率）は、昨年度に比べて減少しています。

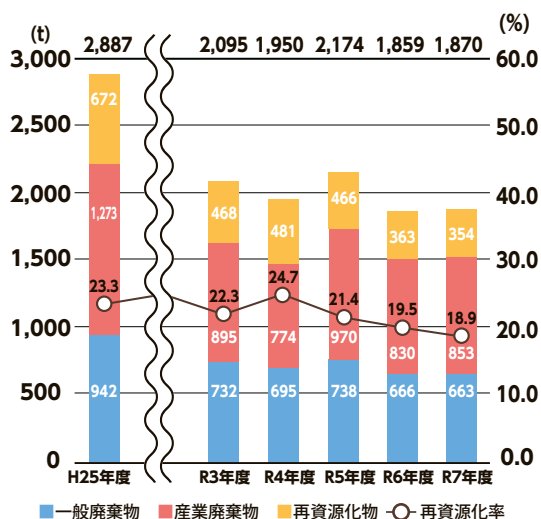


図8 廃棄物及び再資源化物排出量と再資源化率の推移

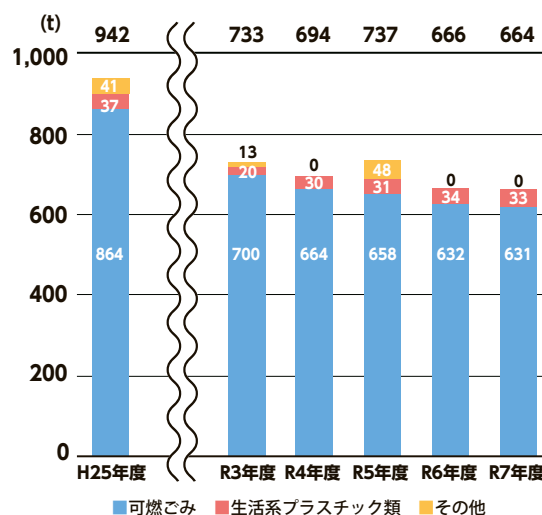


図9 一般廃棄物排出量の推移

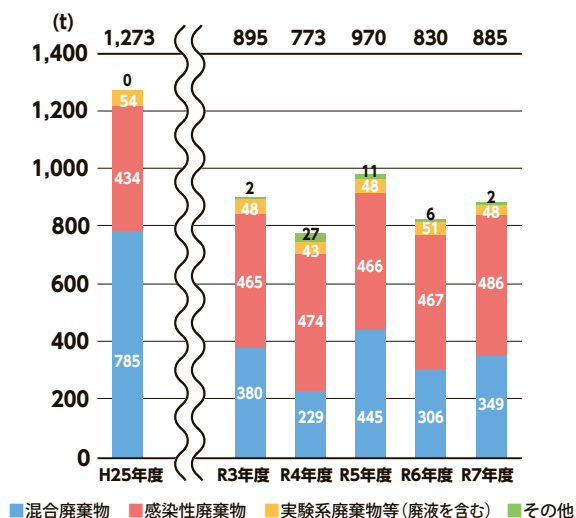


図10 産業廃棄物排出量の推移

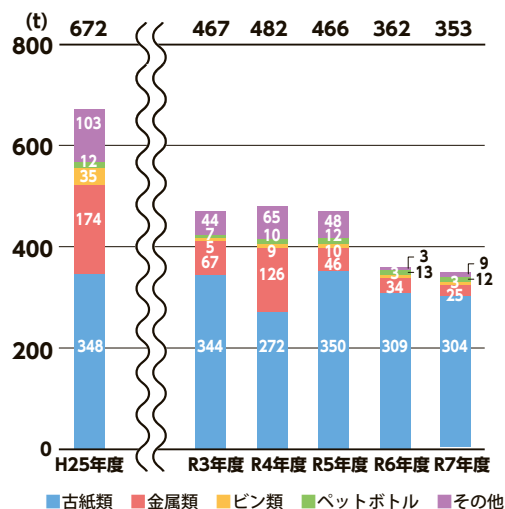


図11 再資源化物排出量の推移

[10] 有害廃棄物の適正管理

(1) 実験廃液

実験廃液とは、有機溶剤等を含む有機廃液、水銀、重金属、シアンなどを含む無機廃液、現像・定着液などの写真廃液をいいます。安全衛生推進機構環境管理部門への廃液搬入量の推移を図12に示します。

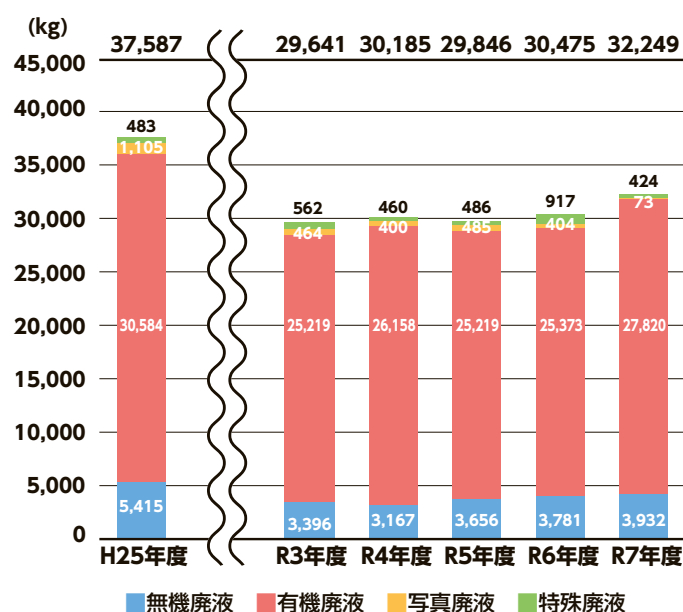


図12 安全衛生推進機構環境管理部門への廃液搬入量の推移

(2) ポリ塩化ビフェニル (PCB) 廃棄物

ポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」と略します）廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、PCBが含まれる廃棄物については、処分までの間、適正に保管し適切に処分する必要があります。

岡山大学では、PCB廃棄物を保管しているため、その保管状況について毎年度行政へ報告を行っています。このうち、一部の低濃度PCB廃棄物に関して、令和7年度中に搬出及び委託処分完了しました。

Ⅵ. グリーン購入の推進

[11] グリーン購入

岡山大学では、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）を遵守するため、岡山大学における「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を策定・公表し、環境物品等の調達を推進しています。令和7年度の特定調達品目の調達実績では、調達目標100%に対して、一部目標が達成できませんでした。理由としては、リース期間終了後再リース契約をしたためです。

表2 令和7年度グリーン購入調達実績

分 野	目標値 (%)	目標達成率 (%)	備 考
紙類 (7 品目)	100	100	目標達成
文具類 (85 品目)	100	100	目標達成
オフィス家具等 (12 品目)	100	100	目標達成
画像機器等 (10 品目)	100	100	目標達成
電子計算機等 (4 品目)	100	100	目標達成
オフィス機器等 (5 品目)	100	100	目標達成
移動電話等 (3 品目)	100	100	目標達成
家電製品 (6 品目)	100	100	目標達成
エアコンディショナー等 (3 品目)	100	100	目標達成
温水器等 (4 品目)	100	100	目標達成
照明 (3 品目)	100	100	目標達成
自動車等 (8 品目)	100	50	目標未達
消火器 (1 品目)	100	100	目標達成
制服・作業着 (4 品目)	100	100	目標達成
インテリア・寝装寝具 (11 品目)	100	100	目標達成
作業手袋 (1 品目)	100	100	目標達成
その他繊維製品 (7 品目)	100	100	目標達成
設備 (11 品目)	100	100	目標達成
災害備蓄用品 (15 品目)	100	100	目標達成
公共工事 (70 品目)	100	100	目標達成
役務 (20 品目)	100	100	目標達成
ごみ袋等 (1 品目)	100	100	目標達成

[12] 環境配慮契約

国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律（環境配慮契約法）の基本方針で環境配慮契約の具体的な方法が定められている①電気の供給の環境配慮契約4件について、裾切り方式を採用し契約を行いました。⑤産業廃棄物処理の環境配慮契約2件について、裾切り方式を採用し契約を行いました。

なお、②自動車の購入及び賃貸借、③船舶の調達、④-1建築物の設計、④-2建築物の維持管理、④-3建築物の改修に関する契約は該当する案件がありませんでした。

Ⅶ. 化学物質の管理徹底

[13] 化学物質の適正管理

岡山大学の教育、研究、医療活動においては、多種類の化学物質を取り扱っています。

令和7年度は、化学物質管理講習会、実験・実習開始前教育の実施などにより、教職員、学生の化学物質についての意識啓発を図っています。また、化学物質管理状況監査として、全部局を対象とした書面監査を実施するとともに、1部局が管理する建物の内、毒物・劇物保管庫を有する全ての研究室に赴き、毒物・劇物の管理状況の確認等を行う現地監査を実施しました。

[14] 化学物質の環境への排出・移動量

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律に基づき、岡山大学で取り扱われている化学物質（第1種指定化学物質）のうち、1年間に基準値以上の取り扱いがある化学物質について、毎年度、大気等の環境中への排出量及び下水道、廃棄物等としての移動量を国へ報告しています。

令和7年度の主な集計結果は表3に示すとおりで、国へ報告したのは、津島地区におけるクロロホルム、ジクロロメタン、ヘキサンの3物質及び鹿田地区におけるキシレンでした。

表3 化学物質の環境への排出・移動量

対象物質 物質番号	対象物質物質名称	排出量 (kg/年)				移動量 (kg/年)			排出・移動量 合 計 (kg/年)
		大気への 排 出	公共用水域 への排出	土 壌 へ の 排 出	排 出 量 合 計	下水道への 移 動	事業所外 への移動	移 動 量 合 計	
56	エチレンオキシド	67	0	0	67	0	298	298	365
80	キシレン	31	0	0	31	0	2,100	2,100	2,131
127	クロロホルム	23	0	0	23	0	2,636	2,636	2,659
186	ジクロロメタン（塩化メチレン）	5	0	0	5	0	1,888	1,888	1,893
232	N, N-ジメチルホルムアミド	0	0	0	0	0	58	58	58
300	トルエン	2	0	0	2	0	240	240	242
392	ノルマルヘキサン	10	0	0	10	0	3,157	3,157	3,167
400	ベンゼン	0	0	0	0	0	8	8	8
411	ホルムアルデヒド	0	0	0	0	0	127	127	127
674	テトラヒドロフラン	0	0	0	0	0	135	135	135
699	パラホルムアルデヒド	0	0	0	0	0	8	8	8

※環境報告書対象範囲の合計を表す

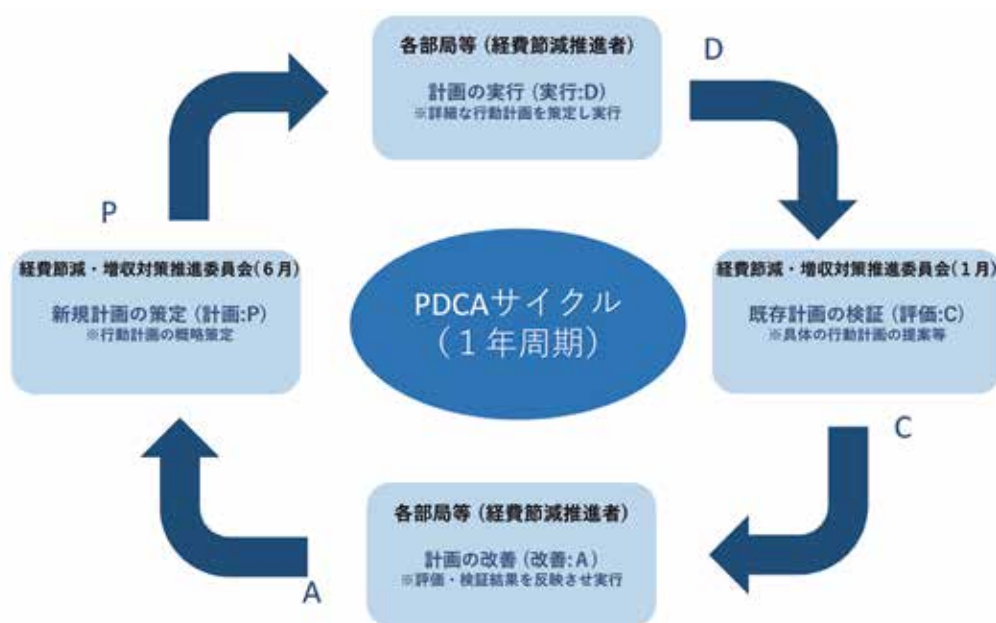
Ⅷ. 排水管理状況

岡山大学では、関連法令等に基づく管理のほか、学内規定による自主管理を行っています。下水道法及び水質汚濁防止法に基づく定期的な水質検査のほか、建物近傍の検水槽におけるpH監視等を行っています。

IX. 省エネルギー・省資源のための取り組みと環境会計

[15] 省エネルギー・省資源のための取り組み

岡山大学では、経費節減・増収対策推進委員会を毎年開催し、学部・研究科等における取組状況を検証して、PDCAサイクルを着実に回し、省エネルギー対策等を推進しています。



この取組の中で、省エネルギー・省資源につながった事例を紹介します。

【光熱水量の縮減】

- LED照明、高効率空調設備への計画的な導入
- 屋根、屋上、外壁改修工事における遮熱塗料、断熱材の採用
- ペアガラス、遮熱性の高いブラインドの設置
- ガス空調、貫流ボイラー、発電機等の運転方法の改善
- 節水トイレ、感知式の洗浄弁、自動水栓の設置
- 人感センサーの設置

【紙の削減】

- 印刷時における白黒・両面印刷、裏紙利用、集約印刷利用の推進
- Web会議の推進
- 会議等におけるPC、プロジェクター、タブレット端末等利用によるペーパーレス化
- 電子決裁システムの利用によるペーパーレス化
- ペーパーレスFAXの利用

【リサイクル・リユース・リデュースの推進】

- 古紙集積コンテナ設置によるリサイクルの推進
- ゴミ集積場の整備を行い、廃棄物品目別仕分けによるリサイクルの推進
- 文書整理によるファイル類のリユース
- リサイクル可能な物品の売却
- 詰替え可能な製品によるリデュースの推進

[16] 環境会計

令和7年度の環境会計情報として、本学の会計システム（財務会計システム）データから環境保全コストに関わるものを抽出・分類したものを集計しました。

表4 環境保全コスト

【単位：千円】

分 類		令和5年度	令和6年度	令和7年度	内 容
(1) 事業エリア内コスト		927,352	786,063	1,022,042	
内 訳	(1)－1 公害防止コスト	29,071	29,877	34,900	大気汚染防止、水質汚濁防止等のためのコスト 空気環境測定、排水分析、アスベスト調査、 配水管清掃など
	(1)－2 地球環境保全コスト	685,327	598,465	821,210	地球温暖化防止、省エネルギー等のためのコスト 高効率照明、人感センサー、遮熱塗料、太陽光 発電設備など
	(1)－3 資源循環コスト	212,955	157,721	165,932	資源の効率的利用、廃棄物処理等のためのコスト 産業廃棄物・廃薬品処分、リサイクル処理など
(2) 管理活動コスト		558,755	547,784	584,415	環境情報の開示・環境広告、環境教育、環境改善 対策等のためのコスト 環境報告書、樹木管理、清掃費など
(3) 環境損傷対象コスト		672	638	643	環境保全に関する損害賠償等のためのコスト 汚染負荷量賦課金
合 計		1,486,780	1,334,485	1,607,100	

表5 光熱水等コスト

【単位：千円】

区 分	令和5年度	令和6年度	令和7年度
電 気 料 金	1,804,820	1,357,214	1,275,240
上 下 水 道 料 金	146,062	190,755	219,970
ガ ス 料 金	306,853	378,401	349,285
プロパンガス料金	779	675	465
重 油 料 金	215	371	428
灯 油 料 金	1,865	1,658	1,633
ガソリン等燃料費	5,793	5,754	6,291
合 計	2,266,387	1,934,828	1,853,312

8 法規の遵守状況

岡山大学の諸活動においては、多くの法令等が関係しています。社会的責任・説明責任を果たすうえで、法令遵守は最低限の責務です。環境関連法令として、以下に示す法令等に基づく報告、届出などを適切に行っているほか、関連状況を把握しています。

【報告・届出を行った法令等】

- エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- 岡山県環境への負荷の低減に関する条例
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
- 国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- 下水道法
- 水質汚濁防止法
- 瀬戸内海環境保全特別措置法

【状態把握を行っている法令等】

- フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
- 水銀による環境の汚染の防止に関する法律

9 第三者コメント



SDGsの達成目標年である2030年が近づく中、気候変動、生物多様性の保全、資源循環、防災など、相互に関連する環境課題への対応がますます重要となっています。このような状況において、大学には、自らの活動に伴う環境負荷を低減するだけでなく、教育・研究を通じて持続可能な社会を担う人材や新たな知を創出し、その成果を地域や社会へ還元することが期待されています。岡山大学では、SDGsの達成を教育・研究・社会貢献活動と結び付け、幅広い取組を展開されています。本報告書で紹介されている、炭素循環を題材としてシステム思考を育む環境教育は、次世代の人材育成という観点から大変興味深い取組です。また、ナノ空間材料を活用した新たな材料・プロセスの研究に加え、地域住民、自治体、企業等と連携した「SDGs×防災」の継続的な取組は、大学の知と人材を地域社会の課題解決につなげる好例となっています。さらに、エコナイトやクリーンキャンパスなど、学生が主体的に参画する活動も継続されており、環境配慮が岡山大学の文化として根付きつつあることが伺えます。一方、環境目標の達成状況を見ると、例えば地球温暖化対策において、令和7年度にはCO₂排出量が前年度比13.2%減少するなど、これまでの取組の成果が着実に現れています。持続可能な社会の実現を先導する大学として、岡山大学が教育・研究活動の発展と環境負荷の低減を両立させながら今後さらなる取組を展開されることを期待します。

広島大学環境安全センター長 中井 智司

奥 付

過去に発行した岡山大学環境報告書

環境報告書 2005 - 2006 (2006年9月発行)

環境報告書 2007 (2007年9月発行) — 環境報告書 2025 (2025年9月発行) (毎年度発行)

表紙・裏表紙の写真について

表 紙／写真大：工学部実験研究棟 ソーラーパネル (外観)

写真中：中央図書館 (外観)

写真小：共創イノベーションラボ (内観)

裏表紙／Junko Fukutake Terrace (外観)

岡山大学環境報告書 2026

◆編集・企画：環境マネジメント委員会・安全衛生推進機構環境管理部門



学 章

岡山大学 環境報告書

お問合せ窓口： 国立大学法人岡山大学 安全衛生推進機構環境管理部門
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
Tel.086-251-7280 Fax.086-251-7281
E-mail ccg7280@adm.okayama-u.ac.jp



<https://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/er.html>

岡山大学環境報告書

検索